

# みんなの学校

令和6年度

蒲郡中学校区

「学校運営協議会」だより

第2号

令和6年11月発行

ー地域とともにある学校づくり・まちづくりー

いよいよ動き始めました

## 子どもたちの活動を地域が支えるために

10月12日（土）10：00から、蒲郡中学校多目的教室において「第2回蒲郡中学校区学校運営協議会」が開催されました。

### 【廣中会長あいさつ】

第1回の熟議をもとに学校もいよいよ動き出す。前回の熟議の内容をきっかけに、4校の小学生と中学生が一つになって蒲中学区サミットを開催し、蒲中学区のあいさつ運動を充実、定着させていこうという話し合いが行われた。子どもたち自身も学校を土台として動き出したということで、ますます皆様方の力を借りなければいけないときがきた。

### 【経過報告】蒲中学区あいさつ運動について

#### 1. 蒲中学区子どもサミットの開催

5月18日の運営協議会、6月11日の四校連絡会を経て、『学区をあげた「あいさつ運動」「ボランティア（交流）委員会・地域活動への参加（協働）」の推進をしていきたい』という願いを基に、8月9日（金）に蒲郡中学校区4小中学校の生徒会・児童会執行部24名と教職員12名が参加した第1回蒲中学区子どもサミットが開催された。蒲南小児童会執行部企画の、自己紹介カード交換タイムで交流を深めた後、「四校一斉あいさつ運動」と「あいさつ協力隊募集」について、あいさつ運動の実施方法や、地域の方と顔や名前が結びついた関わりを深めるための「協力隊バッチ」制作について、提案・協議が行われた。

その後は「地域の人ともっと仲良くなるためにできることは」をテーマに5つのグループに分かれて熟議を行い活発な意見交換がなされる中で、

- ① 四校交流委員会を立ち上げる。
- ② 四校の希望者が集う地域イベント（スポーツ、昔遊び、コンサート等）を実施する。
- ③ 地域の方と一緒に四校が同時に同じ企画を行う。
- ④ 地域目安箱の設置、蒲中学区通信、がまカフェをつくる。地域の方を給食に招く。など、地域の方への働きかけをする。

等のアイデアがまとめられた。

### 【第2回学校運営協議会】

- 1 はじめのことば
- 2 会長あいさつ
- 3 代表校長あいさつ
- 4 経過報告
- 5 協議
  - (1) 「蒲中学区あいさつ運動」について
  - (2) その他
- 6 連絡
  - (1) 学校評価アンケートについて
  - (2) 連絡アプリ「コードモン」の登録について
  - (3) 今後の予定
  - (4) その他
- 7 おわりのことば



【廣中会長】



## 2. 四校一斉あいさつ運動の実施

子どもサミットでの決議を受け、9月13日(金)と20日(金)の登校時間に四校一斉あいさつ運動を実施。蒲郡中の執行部・自治委員会の生徒は各小学校に出向き、児童会執行部と一緒にあいさつ運動を行い、元気の良いあいさつができた子には花の図柄のシールを渡していった。子どもたちはお互いに元気なあいさつを交わすことができ、うれしそうにシールを各学校に掲示された『あいさつの木』に貼っていく姿が見られた。



## 3. あいさつ協力隊の募集（バッチ制作）

これまでの様々な話し合いの場で、あいさつに関して大人と子ども両方から「相手にあいさつをしていいのかとまどう」という声が多くあり、安心してあいさつができる土台作りのために『あいさつ協力隊バッチ』の作成を進めている。すでに四校の児童・生徒から募集した図案が決定しており、完成後は地域の方に配付しニックネームや名前を記してつけていただく中で、お互いに安心してあいさつをしあえる環境作りを進めていく。



【各学校のバッチデザイン】

### 【協議】今後の蒲中学区あいさつ運動にむけて

- 気持ちのよいあいさつは**笑顔**であいさつすること。子どもたちも笑顔をもってあいさつ運動に取り組んでほしい。
- あいさつを返すとき**目が合えば必ず笑顔**になる。それが大切。
- すべてのコミュニケーションの始まりはあいさつ**だと思う。小学校に中学生が来てあいさつ運動をしたのは、自分たちの進学先の姿が見られてよい。小学生が中学校に行っても面白い。
- 小学生と中学生が別日にあいさつ運動を開催して、小学生が中学校に来てあいさつをすると中学生がしっかりあいさつするんじゃないかと思う。保護者にもしっかり告知して、**親が朝起きて「おはよう」や「いってらっしゃい」を言うなど家の中からも発信**できるといい。**地域の人にもあいさつ運動をすることをポスターなどでアピール**すると地域の人にもあいさつができてさらによい。
- 登校の時のボランティアで交差点に立っている方が最近はいさつをしても返ってこないと言っていた。**バッチを渡す**ということをやっていたら、**子どもからあいさつが返ってくる**ことになるのかなと思って期待している。
- 図書館を利用している皆様にこちらからあいさつをするようにしている。こういうことを**地道に続けていけばあいさつが定着**してくる。イベント的なことも大事だが、普段から地道に計画していくことも大切。
- 障害のある方で発達障害だとあいさつのできない子が一定数いるが、できないことをできないままじゃだめ。岡崎市の支援学校の先生が「あいさつは健常の方が思うよりすごく大事」と言っていた。これは**社会の中で愛される人になる、その一歩目があいさつ**。あいさつを積極的にこちらから働きかけるのが理想の姿。
- 子どもに顔を覚えてもらえば**子どもの方からあいさつしてくれる。バッジをつければ子どもたちは**安心してあいさつができる**と思う。
- 元気なお年寄りだけでなく、学校や交差点までは行けないけど**家の前でなら立ってあいさつできる**というような方にも**バッジが配られる**といい。
- 学校で地域の人を知ろう集会をしたら、子どもたちが地域の方の**名前を覚えてあいさつできるようになった**。子どもたちが交差点に立ってくれているボランティアの方の名前がバッジをつけることで覚えてあいさつしやすくなるといい。お祭りなど常会でせっかく集まっているのに**地域の方の名前を子どもたちは知らない**ので知ってほしい。
- バッジに渡す人の**名前を書いて渡す**とももらった方も楽しくなるのかなと思う。
- 子どもがあいさつをできる、できないは**親との関係性**もある。家庭であいさつができていないと子どもは、あいさつできないのかもしれない。家庭の対策は難しいかもしれないが、学校で「(あいさつを)言ったかチェックシート」的なものやってみてはどうか。

### 【まとめ】廣中会長より

- ①あいさつの大切さを学校教育の中でも家庭との関係も併せて生活の様子を見てきちんと指導していく必要がある。
- ②自分から率先してあいさつできるようにするには、顔つなぎ、名前がわかる、そういった手段を手立てとしてもつ。
- ③一つのことを地域の人とやっていこうとするときに、地域の方とのコンタクトが大切。子どもの思いを大切にしながら、子どもにも限界があるので、大人の手助け、力が必要になってくる。

以上、第2回協議会の概要でした。